

JAPIC NEWS

9 2006.
月号
(No.269)



CONTENTS

《巻頭言》

- 「ジェネリック医薬品の普及促進と医薬情報」……………2
医薬工業協議会 会長 吉田逸郎

《トピックス》

- 新薬承認審査報告書データベース「日本の新薬」本リリース……………5
「JAPIC医療用医薬品集 2007」……………7
「JAPIC一般用医薬品集 2007」……………8
新入職員紹介……………9
新入会員機関……………9

《シリーズ》

- 東南アジアの医療事情(5) ネパール①
薬事の近代化は薬草開発から始まった
JICAシニア海外ボランティア 土屋 自佑……………10
《図書館だよりNo.195》……………13
《8月の情報提供一覧》……………15

《巻 頭 言》



ジェネリック医薬品の 普及促進と医薬情報

医薬工業協議会 会長
吉田 逸郎 (Yoshida Itsuro)
(JAPIC 評議員)

日本では財政再建問題を抱える中で、高齢化が急激に進み、医療費の増加が避けられそうにない。その一方で、国民皆保険制度を維持し、国民が安心できる医療環境を充実させなければならないという社会の要請も大きい。そこで、医療費を軽減する手段の一つとして、ジェネリック医薬品（後発医薬品）の役割に注目が集まっている。医療制度改革大綱においても、後発医薬品の使用促進が明記されており、その流れは確実なものとなってきたところである。

欧米ではジェネリック医薬品の積極使用が進められており、効果的な医療費軽減がなされてきたが、日本ではこれまでジェネリック医薬品があまり注目されてこなかったという経緯がある。先発医薬品、後発医薬品にかかわらず、患者が薬剤費の一定割合を負担するこれまでの制度の下では、後発医薬品使用のインセンティブがあまりなかったためと思われる。患者さんや医療関係者の方々にジェネリック医薬品を正しく理解していただくためのメーカーとしての情報提供が十分でなかったこともその一因であったと言えよう。数年前からジェネリック医薬品メーカー数社がテレビ CM などを積極的に行うようになったこともあり、最近になってようやく「ジェネリック医薬品」という言葉そのものは広く普及してきた。

しかしながら、ジェネリック医薬品の普及拡大については、まだまだこれからといったところであろう。ジェネリック医薬品については、医療関係者の方々からまだまだ漠然とした不安の声があるとよくお聞きする。「後発品は先発品と同じ品質なのか?」「後発品は汎用規格しか売っていない」「安定供給ができていない」「後発品の効能が先発品と同じになっていない」などの指摘があると聞き及んでいる。

そこで、厚生労働省から後発医薬品の使用促進のための環境整備として、①全規格収載、②安定供給、③効能揃え、④添付文書情報の充実、の4つの通知が相次いで発出されたところである。全規格収載については、申請に時間がかかることから、平成23年度末までに対応することになっており、代替調剤を行いやすくするためにもメーカーとして努力を惜しまないつもりである。安定供給については、全国47都道府県で医療機関からの発注に対しタイムリーに製品を供給できる体制を整える必要があり、ほとんどのメーカーで対応できていると思うが、急配などへの対応も含め今後も不断の努力が必要であると考えている。また、追補収載直後に大幅な値引き販売を行い、数回の薬価改定後に販売をやめてしまう、いわゆる「売り逃げ」という販売手法もずいぶん昔にはあったようだが、今ではそのようなメーカーはなく長期間に渡って医療機関に製品を供給しつづけている。効能揃え、添付文書情報の充実についても通知にしたがって対応を進めているところである。添付文書情報については、生物学的同等性試験、安定性試験等に関する情報なども充実させることができ、ジェネリック医薬品の信頼性向上という点で意義のあることと思う。

メーカーとして、ジェネリック医薬品の普及促進に向けてできる限りのことをしなければならないと考えているが、医薬品情報の収集という点においては、開発から市販後に至るまでの先発医薬品メーカーの情報収集力に一日の長があると言わざるを得ないだろう。後発医薬品の場合、承認申請時には、「規格及び試験方法に関する資料」、「安定性に関する資料」「生物学的同等性に関する資料」の3資料が必要とされ、先発医薬品と有効性、安全性については同等であると担保されているため、具体的な臨床情報等に関してほとんど手持ちはない。しかしながら、国民の医療費軽減のためにも、先発医薬品の特許が切れた後は、特許などの知的財産だけでなく、それに関連するさまざまな情報も、国民共有の財産として広く利用されるべきであろうと思う。先発医薬品と後発医薬品の情報が統合されてもっと有効に使われるような時代になればと期待している。

現在のジェネリック医薬品の情報不足を補完するという観点から、JAPICの事業（JAPIC Daily Mail）や保有するデータベース（iyakuSearch）は、感染症定期報告書の作成、海外の規制当局の措置情報に関する情報収集などにおいて利用価値が高い。今後も、ますます重要になってくると思われ、JAPICのさらなる発展に期待するところが大である。

医薬品は情報を伴って初めて価値があるということがよく言われる。情報がなければ医薬品として信頼を得ることができない。しかし、情報があるからといってそれが信頼につながらないことがあるような気もしている。ジェネリック医薬品が現在おかれている状況がまさにそうではないだろうか。「当局の厳しい審査をクリアして承認を受けています」「GMP 準拠の工場で、きちんとした品質管理体制の下で生産しています」という事実をきちんとお伝えしているつもりだが、それだけでは一部の関係者の方のジェネリック医薬品に対する不信感をなかなか払拭することができない。

我々メーカーの側にも努力不足の点はあるのだろうが、情報の持つ力がある一方で、情報をもってしても乗り越えられない壁の存在も強く感じることもある。現在までも多くの医療機関の方に愛され使われてきたジェネリック医薬品の実績を、これからもひとつひとつ積み重ねていくこと。これに勝るジェネリック医薬品の使用促進策はないのかなと感じているところである。



新薬承認審査報告書データベース 「日本の新薬」を本リリース！

（「日本の新薬」冊子体は好評発売中）

新薬承認審査報告書の全文データベース「日本の新薬」（以下「日本の新薬」DB）を9月に本リリースいたします。

現在、新薬の承認に関する情報は国立医薬品食品衛生研究所、(財)日本薬剤師研修センター、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の3カ所に分かれてPDFの形で公開されております。この公開された情報のうち審査報告書部分をテキスト化し、検索ができるようにデータベース化したものが「日本の新薬」DBです。本年1月にテストリリースし、テスト期間中はご利用の皆様から様々なご意見をいただき誠にありがとうございました。そのご要望も取り入れて本年9月に本リリースいたします。「日本の新薬」DBは当分の間無料でご利用いただけますので引き続きのご利用をお願い申し上げます。

本リリース時に新たに搭載する機能は以下のとおりです。

◆ 全文検索機能

任意の用語（2文字以上）による審査報告書全体からの検索ができます。検索語はハイライト表示されますので検索した用語が文中のどこにあるか一目でわかります。

◆ 項目別選択表示機能

起源または発見の経緯…、薬理作用に関する資料…、臨床試験の試験成績に関する資料などの項目ごとの表示及びダウンロードができます。

上記機能の他にテスト版で搭載した機能のグレードアップを図りました。

- ・ 文字の大きさが選択できます。
- ・ 検索結果一覧表示をより見やすく改良しました。
- ・ 詳細表示画面の各項目へのジャンプ機能の精度を向上させました。

また搭載する情報についても最新情報まで含めて提供いたします。

(テスト版は平成 17 年 10 月までの公開分でしたが、最新情報までを搭載、情報の内容の精度も向上させました。)

●本リリース時での追加機能を含めた「日本の新薬」DB 機能は下記のとおりです。

(★印が今回新たに搭載される機能です)

◆ 収録データおよび収録範囲

- ・新薬の承認に関する情報の中、「審査報告書」と「審査結果報告書」
- ・平成 10 年 1 月承認分～平成 18 年 4 月承認公表分 (7 月承認分についても公表され次第順次データ作成後掲載)

◆ 検索項目

(検索項目とそこに含まれる審査報告書の項目を表しました)

- ◇医薬品名 (販売名、一般名、有効成分名、化学名、本質)
- ◇申請・承認年月日 (申請年月日、承認年月日)
- ◇申請区分
- ◇剤形
- ◇会社名 (申請者名)
- ◇薬効分類名 (薬効分類名、薬効分類番号)
- ◇効能・効果 (効能・効果、申請時の効能・効果)
- ◇使用上の注意 (効能・効果の使用上の注意、用法・用量の使用上の注意)
- ◇承認条件
- ◇特記事項

★全文から

◆ 検索結果

- ◇ 一覧表示 (CSV 形式でダウンロード可能です。)

検索結果は承認年月の新しいものから表形式で一覧表示されます。

一覧表示は固定で表示される項目と選択できる項目があります。

●固定表示項目

- ・承認番号 ・販売名 ・一般名 ・剤形 ・会社名 ・薬効分類名
- ・承認・申請年月日

●選択表示項目 (3 個まで選択可能です)

- ・申請区分 ・効能効果 ・申請時の効能・効果 ・用法・用量
- ・申請時の用法・用量 ・承認条件 ・特記事項

★使用上の注意

- ◇ 全文詳細表示

- ・全文 HTML と PDF がご覧いただけます。
- ・全文 HTML ではイ. 起源または発見の経緯…, ロ. 物理化学的性質並びに規格…など各項目にジャンプできます。

★項目別選択・表示機能

- ・イ. 起源または発見の経緯…, ロ. …などの各項目別に選択表示、ダウンロードができます。

◆ 更新頻度

- ・審査報告書、審査結果報告書が公表され次第、データ化を行い、順次更新します。

なお、薬効別に編集し直しました「日本の新薬」冊子体 (全 20 巻) も発売中です。
審査報告書全文を参照するには冊子体が便利です。併せてのご利用をお願い申し上げます。

JAPIC「医療用医薬品集」2007

9月1日 発刊！

医薬品を適正に使用するにあたって添付文書情報は不可欠なものです。本財団法人（JAPIC）は、過去 30 年余にわたり最新の添付文書を製薬企業の協力を得て入手し、それらを一貫した方針で「医療薬日本医薬品集」の名称で編集してきました。この医薬品集は、2005 年版（第 28 版）までは、（株）じほうから発行していましたが廃刊とし、新たに、2006 年版からは、JAPIC 自身が、編集とともに発行もすることにし、JAPIC「医療用医薬品集」2006 として発刊し（株）丸善から発売することになりました。添付



文書は一年の間に数多くの改訂がなされますが、それらを正確に、完全に収録した JAPIC「医療用医薬品集」2007 を 9 月 1 日に発刊いたします。本書の発行にあたり、製薬業界、厚生労働省、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ならびに関係者の皆様からご協力いただき厚く御礼申し上げます。

本 2007 年版はこれまでの編集方針を継承したうえで、公益法人としての使命を果たすべく、多くの方にご利用いただけるよう、さらに安価な価格に設定いたしました。昨年は「薬剤識別コード一覧」を別冊とし、使い勝手の改善をはかりましたが、本年はご希望の方に別送（無料）することとしました。また付録の、高速検索機能を持つ CD-ROM も大幅に改善しました。本 CD-ROM のデータには 2006 年 3 月の調査において作成した「一般用医薬品集」の情報も入っており、医療用医薬品、一般用医薬品を網羅したものとなっております。なお、新サービスとして、本冊子発刊後にご希望のユーザ様には毎月の更新情報をインターネットで無料提供いたします。この重要な更新情報は本体冊子に貼り付けできる印刷体として提供（別売）もしております。

本書の信頼性についてはご利用の先生方から高い評価をいただいております。これは薬剤師を中心とする経験の深い専門家による日々の努力と、30 年余の編集実績を認めていただいたものと考えております。本書には「赤ジャピ」という呼称もあるようですが、JAPIC（ジャピック）の赤い本として、今後ともご愛用いただけますようお願いいたします。

理事長 首藤 紘一

JAPIC「一般用医薬品集」2007 8月10日 発 刊 ！

(財)日本医薬情報センター（JAPIC）は 30 年余にわたり、医療用医薬品および一般用医薬品の添付文書を収集し、編集し、網羅的な医薬品集として、それぞれ「医療薬日本医薬品集」、「一般薬日本医薬品集」として、(株)じほうから発行・販売してまいりました。

しかしながら昨年から「JAPIC 医療用医薬品集」、そして今年度から「JAPIC 一般用医薬品集」として、JAPIC 自ら編集から発行まで一貫して制作することになりました。

いずれも、正確さを期し、わが国に流通する医薬品をできるだけ網羅し（約 11,000 製品）、従前に勝る使いやすい医薬品集になっています。一般用医薬品集は、従来は、隔年に発行しておりました。今回の発行は一年遅れになってしまいましたこととお詫び申し上げます。



「JAPIC 一般用医薬品集 2007」（青ジャピ）の特長は、まず、紙面が明るくなりました。見やすくなり、それぞれの製品の成分もよくわかります。さらにブランド名が同じなため成分などを混同しがちな製品を一覧にした「ブランド名別成分比較表」、「一般用医薬品のリスク分類」など付録に綴じこみましたので便利になりました。

薬局、病院薬剤部において、また、消費者や製薬企業の方にも、「JAPIC 医療用医薬品集 2007」（赤ジャピ）と共にご利用いただきたいと思います。

理事長 首藤 紘一

新入職員紹介



穴田 久雄 Anada Hisao
(医薬文献情報担当)

6月に非常勤嘱託として採用となりました穴田久雄と申します。

これまで某製薬企業で研究、学術、開発、安全性部門の経験があり、主にかん領域の薬剤の開発に従事し、幸運にも承認、上市の感激を数度体験できました。直近は安全性部門で開発薬と市販薬の安全性情報管理に従事しておりましたので JAPIC にはお世話になり、親近感を持っておりました。この度ご縁があつて JAPIC の一員に加わることになりました。情報化の時代に即応した形での医薬情報の提供業務はますます重要になると思われまふ。

現在、各国の最新の安全性情報、規制情報の翻訳配信のサポート業務等を担当しております。実務に慣れないでご迷惑をおかけしている段階ですが、これまでの経験を活かして JAPIC のお役に立ちたいと思っております。

特技はありませんが最近落語鑑賞に凝っており、寄席通いや CD 収集で通ぶっております。好きなもののキーワードは、笑い、人情話、お酒、祭、冒険、ミステリー、麺くい、B 級グルメ、等々です。好奇心の趣くま行動半径は広いため、心理的には若人のままで、最近も某ランドでジェットコースターを久々に楽しみ、夜行バスの旅行もこなしております。体力的には成人病自慢の状態にあり、健康に心配りの日々でもあります、気力十分ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会員機関

新入会員機関

新たにご入会いただきました

(敬称略)

(1) 薬局・クリニック等 (G 会員) (8 月)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ◇ くにい調剤薬局 | ◇ マルヤス薬局 |
| ◇ 高木クリニック | ◇ ダルマ薬局 |
| ◇ 沼津薬剤師会支援センター薬局 | ◇ ふれあい豊田薬局 |
| ◇ はしもと診療所 | ◇ 弘前駅前調剤薬局 |
| ◇ 青森調剤センター | ◇ 東京海上日動メディカルサービス (株) |
| ◇ 秋葉薬局 | ◇ 国重外科医院 |
| ◇ 尾川薬局 | ◇ 延岡医薬分業支援センター薬局 |
| ◇ 十字屋薬局 | ◇ 栃木産婦人科医院 |
| ◇ トノムラヤ薬局 | ◇ 志木駅前クリニック |
| ◇ 古見薬局 | |

(2) 大学会員 (8 月)

- ☆ 東京大学薬学部



ネパール①



薬事の近代化は薬草開発から始まった

土屋 自佑 (Tsuchiya Jiyu)

JICA シニア海外ボランティア

ラオスからヒマラヤ山脈を西へ移動してゆくとブータンを経てネパールに達します。今回からネパールの医療・薬事情についてのお話です。

筆者は国際協力事業団（当時、JICA）のシニア海外ボランティアとしてネパール王国の医薬品管理局・王立医薬品研究所（RDRL）に2002年11月より2年間赴任していました。現在はお隣ブータン王国の保健省・伝統治療院で薬草開発を行っています。

ネパールは10年ほど前までは平和で魅力的な国でした。しかし、96年からマオイスト（ネパール共産党毛沢東派）と主要7政党と国王の三つ巴の武装闘争が始まり、治安が悪化しました。私の滞在期間中も目の前で爆弾が爆発することもありました。06年4月に国王が議会の復活を宣言し、事態は収拾の方向に向かったようですが、まだ予断は許されません。まだまだ平和への道のりは遠いようです。

ネパールといえば世界の屋根ヒマラヤ、8,000m級の山々が8峰もあり、それは神々しいばかりです。国土面積は北海道の約1.8倍で14.7万km²、東西約850km、南北約200kmのインドと中国に囲まれた内陸国です。その南北200kmには8000mのヒマラヤから南部タライ平原の80mまでと急峻な高度差を有しているため、気候は亜寒帯から亜熱帯まであり、その風土は多様性に富んでいます。特に、植物の多様性は豊富な種類の薬草を産出し、アユルベーダ医学やチベット医学の発展に貢献しています。

ネパールの薬事の近代化は、1964年に森林土壌省の下に豊富な種類のヒマラヤ薬用植物の開発を目的としてRDRLが設立されたことから始まります。1972年に医薬品産業の促進という国益の元にRDRLから独立して、ネパール初めての医薬品製造会社が設立されました。そのころ

からインド薬局方をベースにしたケミカルの医薬品が普及し始め、RDRL は薬事法の制定等の医薬品規制全般も担当していました。1979 年に RDRL は医薬品の研究、品質管理に関する行政を担当し、医薬品規制、薬剤師教育に関する行政を医薬品管理局として新たに RDRL から分離させました。

その後、1983 年に RDRL と医薬品管理局は森林土壌省から保健省に管轄が移りました。

＜写真 1：RDRL スタッフ＞



WHO の指導の下に徐々に薬事行政を充実化させていきますが、長い間医療の現場から離れた森林土壌省の管轄下にあったため、多くの問題点が出てきました。それに気づいた保健省は 1995 年に医薬品の自給による国民の健康維持、医薬品の安全確保を目標とした National Drug Policy を公表しました。今、ネパールは医療を知らない薬事から徐々に脱皮してきています（写真 1）。

では、医療に結びついていない薬事はどんな問題が生じたのでしょうか？

日本では医薬品には必ず情報(サービス)が付随していることが常識であります。ネパールでは医薬品を物としてしか捉えていません。製薬会社は医薬品情報の担い手としての役割を果たしていませんし、医師もそれを期待していません。医師の医薬品情報はもっぱら外国の書籍や雑誌から入手しています。また、医師は患者へ薬に関してほとんど説明をしていません。100%の医薬分業ですが、町の薬局には薬剤師はいません。代わりに医薬品のトレーニングをたった 3 週間受けた人が医薬品の販売に携わっています。そこでは服薬指導をされないまま、医薬品を剥き



＜写真 2：薬剤交付風景＞

だしのまま患者に渡しています（写真 2）。受け取った患者はどのように飲んだらいいのか分からずに、自分の判断で服薬します。識字率 37%では、日本のような薬袋に服用方法などを記載する以外の方法を考えなくてはなりません。また、完全な医薬分業のため、入院患者は処方された医薬品（注射薬も含む）を家族が買って来て、投薬されます。薬が買えなければ、治療を受けられず治るまでベッ

ドに寝たままです。都市部からちょっと離れると、薬屋さんも露店とほとんど変わりません（写真3）。ここでは期限切れの医薬品が散見され、冷所保存、遮光保存の医薬品もむき出しのまま陳列されています。

このようなことは都市部の薬局にも見られます。観光客が持ち込んだ外国の医薬品や医療援助で流出した医薬品などの未承認医薬品も多く、医薬品管理局のコントロール外で市場に流通している医薬品は約 60% あるといわれています。監視官は定期的に薬局を査察に回っていますが、彼らは不良医薬品を回収するのに追われ、薬局の在庫管理をしてあげているようなものです。



＜写真3：村の薬屋さん＞

ネパールの医療事情は数十年前の日本と変わらないかもしれません。途上国では医療がこのような劣悪の環境下で当たり前に行われていることを多くの日本の皆様に知っていただきたいと思っています。

「良質の医薬品をより早く」、さらに「全世界の人々に」が私の願いです。（続く）

表：ネパールの統計的概要(2002 年)

人口	22,737,000 人	小売業登録数	13,423 軒
識字率	36.7%	卸売業登録数	2,279 軒
平均余命	55 年	製造業登録数	37 社
医師数	約 900 人	外国製造業者	266 社
薬剤師数	約 340 人	医薬品登録数	5,326 品目
基幹病院数	75 施設	輸入医薬品登録数	3,620 品目
村落単位の医療機関数	3900 施設	医薬品自給率	32%

＜新着資料案内 ー平成 18 年 7 月 14 日～平成 18 年 8 月 7 日受け入れ＞

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
Biologics Development: A Regulatory Overview 3rd ed. Mark Mathieu ed.	PAREXEL International Corporation	2004年	283p	¥32,111
European pharmacopoeia 5th edition Supplement 5.6 Council of Europe	Council of Europe	2006年 6月	408p	¥18,473
はじまった着床前診断ー流産を繰り返さないための不妊治療 大谷 徹郎、遠藤 直哉 編著	はる書房	2005年 6月	306p	¥2,100
一般用医薬品学概説 第2版 齋藤 洋 他編著	じほう	2006年 7月	405p	¥5,040
医療情報 第2版 医学・医療編 日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社	2006年 3月	236p	¥3,150
医療情報 第2版 医療情報システム編 日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社	2006年 3月	319p	¥3,150
医療情報 第2版 情報処理技術編 日本医療情報学会医療情報技術師育成部会	篠原出版新社	2006年 3月	325p	¥3,150
健康食品のすべてーナチュラルメディシン・データベース 田中 平三 他監訳	同文書院	2006年 5月	728p	¥12,600
神戸薬科大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業継続事業 平成16・17年度事業報告書 神戸薬科大学ハイテク・リサーチ・センター継続事業運営委員会 編	神戸薬科大学	2006年 7月	618p	
MIMS Annual 2006 (Australian Edition) C. R. Wills オーストラリアの医薬品集。薬効群別、商品名順に配列。	CMPMedica Australia Pty Limited	2006年 6月	1,963p	¥32,220

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
MIMS New Ethicals 2006 Issue 5					
	Elizabeth Donohoo ed.	CMPMedica (NZ) Ltd.	2006年 5月	660p	¥21,000
ニュージーランドの医薬品集。医療薬、OTC薬を収載。					
PDR 60th ed. 2006 Physicians' desk reference					
	David Duplay	Thomson PDR	2005年	3,222p	¥13,356
アメリカの医薬品集。					
専門情報機関総覧 2006					
	専門図書館協議会	専門図書館協議会	2006年 7月	923p	¥32,000
先発医薬品・後発医薬品適応症相違一覧					
	薬事日報社	薬事日報社	2006年 6月	94P	¥1,300
新薬承認情報集 平成18年 No.3 シロドシン[ユリーフカプセル2mg、4mg]平成18年1月承認					
	(財)日本薬剤師研修センター	(財)日本薬剤師研修センター	2006年 6月	1,290p	¥11,340

「JAPIC J」 No.6 2006 の発行

「JAPIC J」 No.6 を8月末に発行しました。本誌は JAPIC 主催の講演会、薬事研究会等で発表された内容の中から主要なものをとりあげ掲載しております。本誌は会員機関の皆様には無料でお送りいたします。

今号の特集記事は、本年3月に実施した JAPIC 医薬情報講座の中から、医薬品安全対策の最近の動き、妊娠とくすり情報センターの取り組み、患者向医薬品ガイド、医薬品コードの状況と、本年2月に実施した薬事研究会や治験説明会から、医薬品治験の最近の話題や、国際共同治験、東南アジアにおけるグローバル開発状況を取り上げました。医薬品を取り巻く環境は、医療安全対策の強化、医療制度改革や薬事制度改革、治験のグローバル化など、内外共に激変しております。本誌は、春と秋の年2回の発行としておりますが、No.6は秋まで待ちきれずに、8月発行となりました。

「JAPICJ」では、旬の医薬品情報を、時機を失することなくお届けしていきたいと考えています。JAPICJ の内容等について、ご意見があれば、是非ご連絡下さい。

＋ 情報提供一覧

平成 18 年 8 月 1 日から 8 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当
(TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1. 「医薬関連情報」 8 月号	8 月 25 日
2. 「Regulations View」 No.132	8 月 25 日
3. 「JAPIC NEWS」 No.269	8 月 25 日
4. JAPIC 「一般用医薬品集」 2007	8 月 10 日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」 No.546－549	毎 週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」	毎 週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報 サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.1275－1297	毎 日
5. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.142－155	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
デ ー タ ベ ー ス 一 覧	更 新 日
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
5. 規制措置情報	毎 日
6. 臨床試験情報	随 時
7. 日本の新薬	テストリリース中
<JIP e-InfoStream から提供> < https://e-infostream.com/ >	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	月 1 回
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
6. 「NewPINS (添付文書情報)」 (月 2 回更新)	月 2 回
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	月 1 回
<JST JDream II から提供> < http://pr.jst.go.jp/jdream2/ >	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回